



函館支部

鈴木 裕章  
Hiroaki Suzuki

皆さまはじめまして。切りの良い第70回税理士試験でなんとか官報合格し、令和3年2月に税理士登録、入会し、会員となりました鈴木と申します。約10年かけて、ようやくこの試験に合格いたしました。今回、eひとeはなしの原稿を依頼されましたが、コロナ禍という事で本当にネタがありませんでした。今回は思い切って税理士試験関係の話を書いてみたいと思います。

私は財表→簿記→消費→法人→事業税という順番で試験を受けてきました。私の感覚ですが、この中で心身ともに一番苦労したのは『事業税』です。3回目で合格することができましたが、発表までは「落ちてる気がする…」と、もう一度受験するか本気で悩んでいました。この事業税、一番の恐ろしさはその「人気のなさ」にあります。

第70回税理士試験を見ても受験者335人合格者44人という圧倒的人気の無さがこの

科目の難しさといえます。さらにこの科目の受験生は複数年受け続ける方が本当に多くて、力が拮抗しており、その中を突破しなければなりません。一年でも早く受かりたくて手を出した小税法の事業税。結果的に私の受験生活で一番長く勉強した科目となってしまいました。

改めて「良く受かったなあ」と思いますが、最後の科目で税理士試験の本当の難しさに直面し、良い経験をさせてもらえたとは感じています。官報に名前を見つけた時の衝撃は一生忘れられない財産となりました。

この10年だけ見ても、明らかに税理士試験全体の受験者数が減ってきているのを肌で感じながら試験を受けてきました。私は39歳になりますが、函館支部では一番若手になるそうです。若い世代が次々に登場して、活気ある業界になってくれれば良いなあと勝手に思いながら、まずは私の周りにおります税理士試験に挑む後輩たちの良い手本になれるように、日々努力していきたいと思っております。

最後に諸先輩方におかれましては、今度ともご指導ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願いいたします。